

産学官連携交流会

in

松本

2023

日時 2023年 10月12日 木 13:00～18:00

会場 松本市Mウイング 6階ホール

方式 会場開催 + オンライン同時配信

開場：12:00、講演：13:00～17:00

名刺交換会：17:10～18:00

パネルセッション：講演前(12:00～12:55)、途中休憩時、講演後

参加無料

地域企業や大学・高専・研究機関の皆様が、産学官連携を通して、それぞれが成長できる機会として産学官連携交流会を開催します。産・学・官の共同取組で成果を上げた事例や、今後の産学官連携に繋がりそうなシーズを取り上げており、本年は特に環境問題等の社会課題に対する実践的な取組の講演もあります。企業と大学・高専・研究機関双方のイノベーション創出や新たな事業・研究のヒントにつながるものと思います。会場へご来場をいただき、実際に見聞きて、多くの皆様と交流され、つなげていただければと存じます。なお、オンラインでも同時配信いたします。

講演 1 ▶	13:20～13:50 【基調講演】	はやしや・長野大学 新製品開発 協働プロジェクト ～食から生まれる笑顔のために～ 株式会社はやしや 取締役会長 飯村 和生 氏
講演 2 ▶	13:50～14:20 【シーズ講演】	循環型社会を目指す易分解性プラスチック 信州大学 先鋭材料研究所／繊維学部, JSTさきがけ 准教授 高坂 泰弘 氏
講演 3 ▶	14:20～14:45 【シーズ講演】	ヘルメット型発汗計測機器を用いた熱中リスク管理システム 公立諏訪東京理科大学 地域連携研究開発機構 客員准教授 小須田 司 氏
	14:45～15:15	休憩 & パネルセッション
講演 4 ▶	15:15～15:40 【企業発表】	鳥獣被害対策用GPS首輪発信器の開発について 株式会社サーキットデザイン 営業部動物トラッキングGr. セールスマネージャー 瓜生 大輔 氏
講演 5 ▶	15:40～16:10 【シーズ講演】	蛍光分析を応用した下水探知センサーの開発 信州大学 工学部水環境・土木工学科 教授 小松 一弘 氏
講演 6 ▶	16:10～16:35 【シーズ講演】	超音波パルスの瞬時振動数に着目した異常診断技術の開発 長野工業高等専門学校 工学科機械ロボティクス系 准教授 門脇 廉 氏
講演 7 ▶	16:35～17:00 【公設試講演】	カーボン排出量可視化・削減支援事業の紹介 長野県工業技術総合センター 環境・情報技術部門 環境技術部長 石坂 和明 氏
	17:10～18:00	名刺交換会（飲食は伴いません） & パネルセッション

対象者

経営者、管理者、技術者等

パネルセッション

会場は講演会場の入口ホワイエ

講演 1	(株)はやしや	講演 5	信州大学工学部
講演 2	信州大学繊維学部	講演 6	長野高専
講演 3	公立諏訪東京理科大学	講演 7	長野県工業技術総合センター
講演 4	(株)サーキットデザイン	パネルセッションのみ	信州大学アグリ・トランスフォーメーション（農X）推進室

応募要項

参加費 無料 定員 会場,オンライン共に100名程度

方式 会場開催 (Mウイング) + オンライン同時配信

申込み方法 講演会 (会場 or オンライン) ・名刺交換会 (参加 or 不参加)

申込みQRコード



- 申込締切り 9月29日 (金)
- 申込方法 当機構の申込ページよりお願いします。または次頁FAXフォームでお申込み下さい。

申込みURL (交流会案内ページからでも申し込めます)
https://www.nice-o.or.jp/?post_type=formpage&p=42666
 交流会案内URL
https://www.nice-o.or.jp/?post_type=info&p=16707

問合せ先

公益財団法人 長野県産業振興機構 松本センター
 〒390-0852 長野県松本市島立1020長野県松本合同庁舎内
 TEL 0263-40-1780 FAX 0263-47-3380
 E-mail : nice-matsumoto[at]nice-o.or.jp
 担当 田中、矢澤、細野、牛山

主催 公益財団法人 長野県産業振興機構
 共催 松本地域産学官連絡会、信州大学学術研究・産学官連携推進機構
 後援 長野県松本地域振興局、松本市、塩尻市、安曇野市
 企画・運営 アルプス広域コーディネータ連絡会議

**【1】はやしや・長野大学 新製品開発 協働プロジェクト
～食から生まれる笑顔のために～**

株式会社はやしや 取締役会長 飯村 和生 氏
「おいしいものを作れば売れる」そう言われていたのは過去の話。価値観の多様化や情報化が進んだ現代、この飽食の時代に、消費者から選ばれるためには、おいしいだけでなく、可視化できない価値、コンセプトやストーリー性を持った商品であることが求められています。OEM商品の製造がメインの食品メーカーが、新たに自社ブランド商品を開発し、販売までを行う上で、直面する様々な課題。それらの解決に向けた、長野大学 企業情報学部 森俊也教授のゼミ生との、協働プロジェクトでの取り組み内容と、得られた成果。またその成果をどのように発展させ、商品化につなげるか。1年間の取り組みについてお話しさせていただきます。

【2】循環型社会を目指す易分解性プラスチック

信州大学 先鋭材料研究所/繊維学部, JSTさきがけ 准教授 高坂 泰弘 氏
近年、プラスチック廃棄物による環境汚染が社会問題になっています。プラスチック廃棄物を削減するためには、プラスチックを回収し、リサイクルすることが有効とされています。これまで、回収したプラスチックを洗浄、粉砕し、鋳つぶして再成形するマテリアルリサイクルが実施されてきました。しかしながら、マテリアルリサイクルは複合材料への適用が難しいうえ、プラスチックが分子レベルで変質・劣化した場合は、新造品と同等の品質を再現することができなくなります。そこで、プラスチックを分子レベルで分解し、改めて化学合成する「ケミカルリサイクル」が期待されています。演者らは最近、頭痛薬として知られるアスピリンを原料に、ケミカルリサイクルが容易な新しいプラスチックを開発することに成功しました。本講演では、この成果を含む、演者らの最近の研究成果をご紹介します。



【3】ヘルメット型発汗計測機器を用いた熱中リスク管理システム

公立諏訪東京理科大学 地域連携研究開発機構 客員准教授 小須田 司 氏
近年の地球温暖化により熱中症発症者数は増加傾向で、社会問題化しています。産業分野別では建設業での熱中症発症者数が最も多く、暑熱建設現場でのそのリスク管理は大きな問題となっています。現在は体温や心拍の変化からそのリスクを検出していますが、手遅れになる場合があることがわかってきました。我々は熱中症機序に着目し、より早期に熱中症発症リスクを検出する手段として、全身発汗量(≒喪失水分量)をヘルメットで検出するシステムを開発しました。これを用いた建設現場における実証実験の結果、心拍数検出より早期に熱中症発症リスクを検出ができる可能性を見いだしました。本システムにより暑熱建設現場での熱中症発症リスクの低減ができると考えており、本講演では開発した発汗量計測機器の紹介や、得られたデータを活用したweb型熱中リスク管理システムの紹介を行うと共に、実証実験の様子や結果についても紹介します。



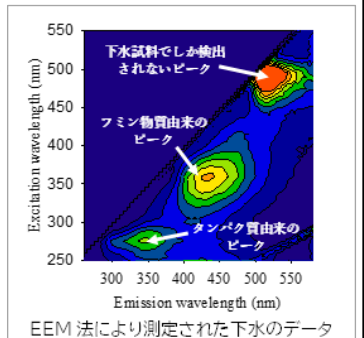
【4】鳥獣被害対策用GPS首輪発信器の開発について

株式会社サーキットデザイン 営業部動物トラッキングGr. セールスマネージャー 瓜生 大輔 氏
GPS首輪発信器およびクラウドシステムのANIMAL MAPは、GPS首輪発信器を装着した害獣(主にヒコザル)の行動を正確に把握し、関係者でデータ共有できるクラウドシステムです。専門技術が必要な従来の調査と比べ、誰でも簡単に害獣の行動パターンを知ることができます。本システムは、鳥獣被害対策に悩む自治体との連携から開発が始まりました。現在では、ヒコザル被害対策を行う多くの自治体に導入いただき、自治体職員はじめ地域住民も一丸となって対策に取り組むことで、被害の削減だけでなく地域の活性化にも貢献しています。今回は、製品化までの経緯、これまでの実績および今後の取組についてご紹介します。



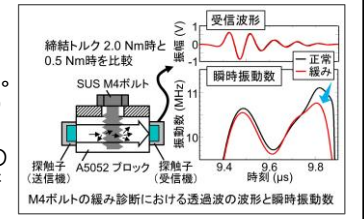
【5】蛍光分析を応用した下水探知センサーの開発

信州大学 工学部水環境・土木工学科 教授 小松一弘 氏
我が国の特に人口集中地域では、川に沿って複数の浄水場や下水処理場がひしめき合っているため、下水処理場の少い下流に浄水場取水口が位置するような地点もあります。こうした地域では、間接的ですが非意図的に下水処理水を飲用している可能性(De Facto Reuse)が懸念されます。この実態を把握するには、「河川水中に何%の下水処理水が残っているか?」という問いに答えなくてはなりません。しかし誰も答えたい人はいませんし、調査例もありません。下水処理水を探知・追跡する指標がないためです。そこで当講演では、河川において下水処理水を探知する新手法を提案します。まだ研究開発段階のシリーズですが、蛍光分析の一種であるEEM法で検出される「下水関連試料でしか見られないピーク」を利用したもので、下水探知センサーの開発につながれます。さらに、近年問題となっている雨天時越流水の影響を把握する手法にも発展可能です。



【6】超音波パルスの瞬時振動数に着目した異常診断技術の開発

長野工業高等専門学校 工学科機械ロボティクス系 准教授 門脇 廉 氏
パルス状の超音波を対象物内部に投射して異常の有無を調べる異常診断手法が広く利用されています。この手法では異常部で反射や透過したパルスに異常の影響が現れます。しかし、複数のパルスが重なり合うと異常の影響が現れにくくなることも多くなります。こうした例は熱溶着フィルムの不良検査やボルトの緩み検査などで珍しくないため、これらの異常診断は容易ではないとされています。これに対して、当研究室ではパルス同士の間隔を調整し、いわゆる干渉の悪影響を低減したり、干渉を積極的に利用して異常診断の精度を高める取り組みを実施しています。例えば受信波の分析において波の各瞬間における主要な振動数を抽出すると、振幅に注目するだけでは見出しにくい異常を検出できます。この振動数は瞬時振動数と呼ばれるもので、パルス同士が重なってしまう様々な場面で活用できます。今回は瞬時振動数の利用をはじめとした種々の異常診断技術の開発について紹介します。



【7】カーボン排出量可視化・削減支援事業の紹介

長野県工業技術総合センター 環境・情報技術部門 環境技術部長 石坂 和明 氏
長野県では、2019年12月に「気候非常事態宣言」を行い、温室効果ガスである二酸化炭素正味排出量(以下、「カーボン排出量」)を2010年比で2030年までに6割減、2050年までに実質ゼロを表明し、「社会変革 経済発展とともに実現する持続可能な脱炭素社会づくり」を目指して「長野県ゼロカーボン戦略」を推進しています。産業部門では、グリーン社会における新しい長野県の産業像として、サプライチェーンで選ばれる長野県産業の構築を目指しており、目標を達成するためには、製造業における企業が自らカーボン排出量を算定し、削減を試みることを求められています。工業技術総合センターでは、企業のカーボン排出量の可視化・削減の取り組みを支援するため、「カーボン排出量可視化・削減支援事業」を令和4年度から新たにスタートし、カーボン排出量の「可視化支援」、「削減支援」及び「普及啓発」による取り組みを行っているので紹介します。

【会場周辺案内図】

Mウイング
松本市中央1-18-1
Tel : 0263-32-1132

駐車場はお近くの
有料駐車場をご使用下さい。



産学官連携交流会in松本 2023

公益財団法人 長野県産業振興機構 松本センター 宛

参加申込書

FAX 0263-47-3380 TEL 0263-40-1780

E-mail : nice-matsumoto[at]nice-o.or.jp

企業名・団体名				TEL	
所在地				FAX	
所属・役職名	氏名	講演会参加	名刺交換会	E-Mail(必須)	
		会場・オンライン	参加・不参加		
		会場・オンライン	参加・不参加		

注1)本申込書にご記入いただいた個人情報、本交流会の登録情報として利用し、他の用途には使用しません。

注2)記載いただいたメールアドレスに主催者から各種の案内(研究会・セミナー等)をお送りしてもよろしいでしょうか? (チェック願います 希望する 希望しない)

注3)受講料は発行しません。